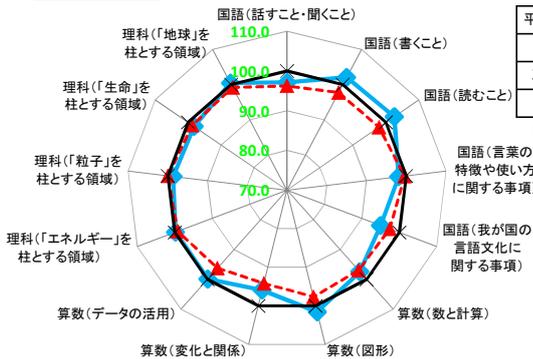


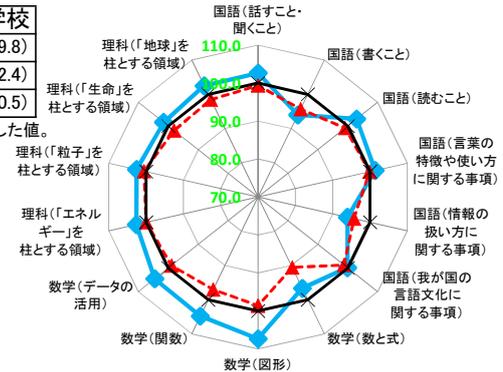
【教科全体の状況】教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校



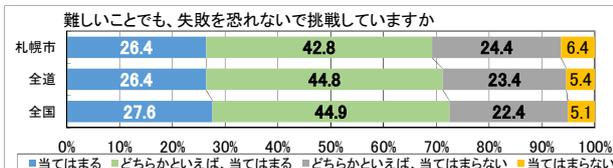
平均正答率(%)	小学校	中学校
国語	65(65.2)	70(69.8)
算数・数学	62(62.4)	52(52.4)
理科	63(62.7)	50(50.5)

中学校

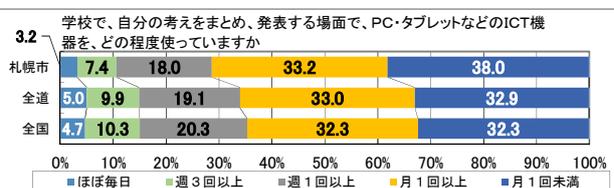
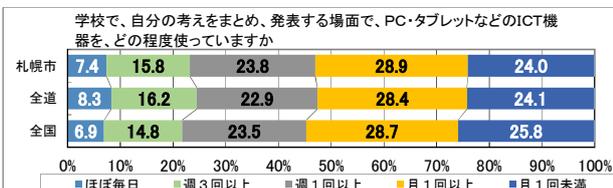
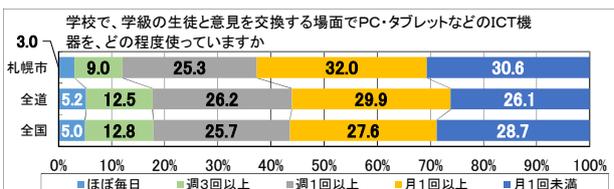
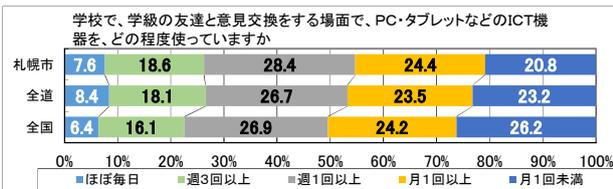
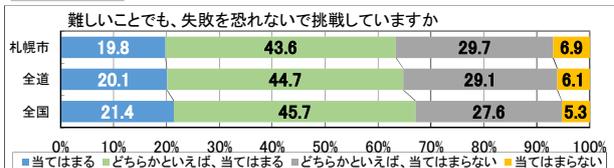


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

	小学校	中学校
教科	<p>国語、算数、理科のいずれも、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや下回っている」</p> <p>◆国語では、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること」、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと」などに課題。</p> <p>◆算数では、「伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述すること」などに課題。</p> <p>◆理科では、「観察、実験で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できること」などに課題。</p>	<p>国語、数学、理科のいずれも、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」</p> <p>◆国語では、「引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くこと」などに課題。</p> <p>◆数学では、「自然数を素数の積で表すこと」、「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること」などに課題。</p> <p>◆理科では、「考察の妥当性を高めるために、他者の考えや実験の計画について検討して改善すること」などに課題。</p>
	⇒身に付けた知識・技能を活用することについて、小・中学校ともに課題	
質問紙	<p>「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」、「自分にはよいところがあると思う」、「将来の夢や目標をもっている」子どもの割合については、小・中学校ともに昨年度と比べて上昇しているものはあるものの、子ども一人一人が自分のよさや可能性に気付いていくことが課題。</p> <p>学校でのICT機器の使用頻度は、小・中学校ともに昨年度と比較すると増加しており、子どもも学習の中でICTを活用することに有用感をもっている。一方、「児童生徒同士がやりとりする場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」などの活用は、十分進んでいるとは言えず、課題。</p>	

【札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた取組】

- ◎ <人間尊重の教育>子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進
- ◎ 課題探究的な学習の推進し、特に子ども同士の協働的な学びの充実を図る
 - ・対話を通して他者との協働により学びが深まる場面の創出
 - ・協働的な学びにおける1人1台端末の利活用
- ◎ 小学校と中学校の教職員が「さっぽろっ子学ぶ力育成プログラム」やパートナー校で作成したグランドデザインを活用しながら教育内容や教育方法、ICTの利活用などについて共通理解を図り、協働的な授業改善を進めていく
- ◎ 「さっぽろっ子『学び』のススメ」、「さっぽろっ子ICT活用のススメ」、「さっぽろっ子小中一貫したつながりのススメ」を活用し、パートナー校、地域、家庭が連携・協働し、子どもを育てていく

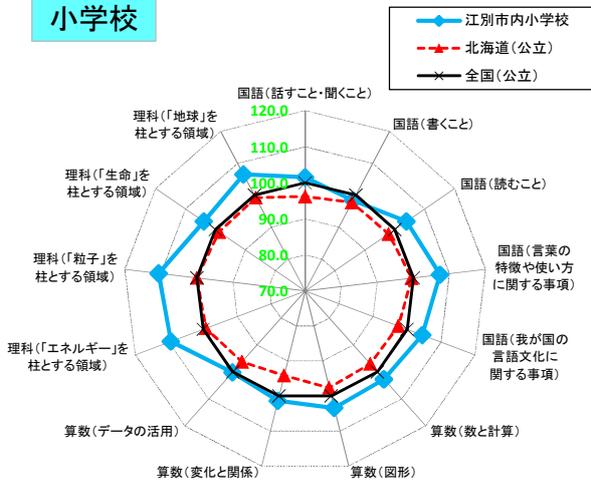
江別市内の状況及び学力向上策（小学校数：17校、児童数：945人）（中学校数：7校、生徒数：660人）

※新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータは、今回の調査結果に含めていません。

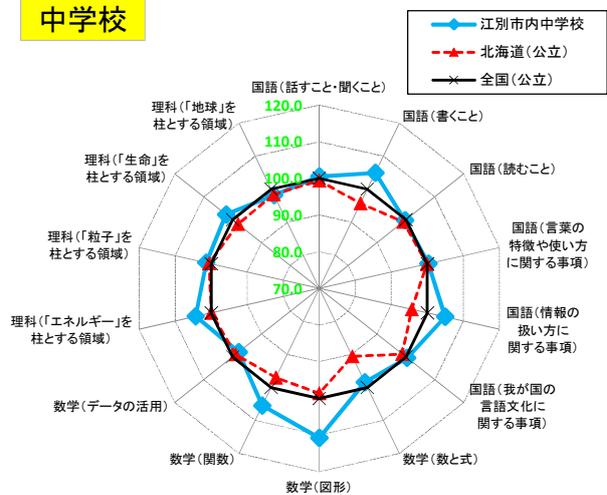
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

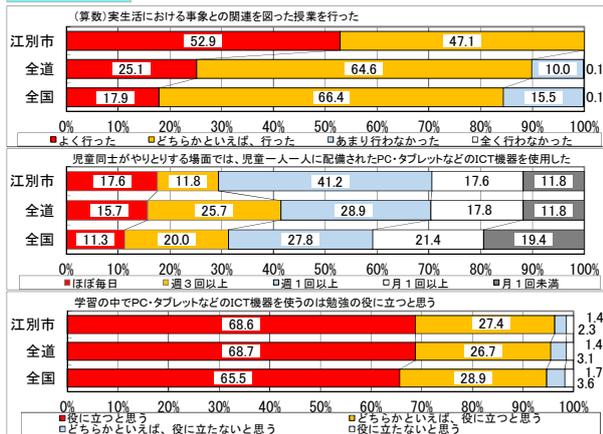


中学校

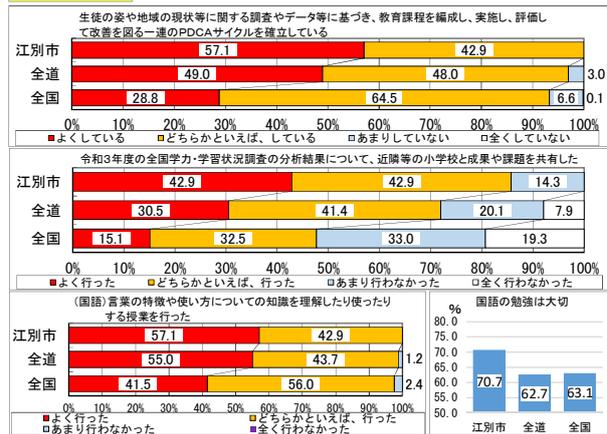


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

市全体で、タブレットを活用した日常の学習活動の充実に向けた授業改善に取り組むとともに、児童同士がやりとりする場面で、タブレットなどのICT機器を活用した取組を進めたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

各学校において、生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立するとともに、令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「図形」「関数」の領域、理科の「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回るとともに、理科の「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の勉強は大切と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【江別市の学力向上策】

- ◎ 日常の授業において、学習サポート教員が指導に当たる小中学校学習サポート事業の実施
- ◎ タブレットや多機能大型ディスプレイ等のICT機器を活用した日常の学習活動の充実
- ◎ 小中一貫教育の令和5年度全面実施に向けた小・中教員の合同研修や系統性を重視した教育課程の編成等の実施

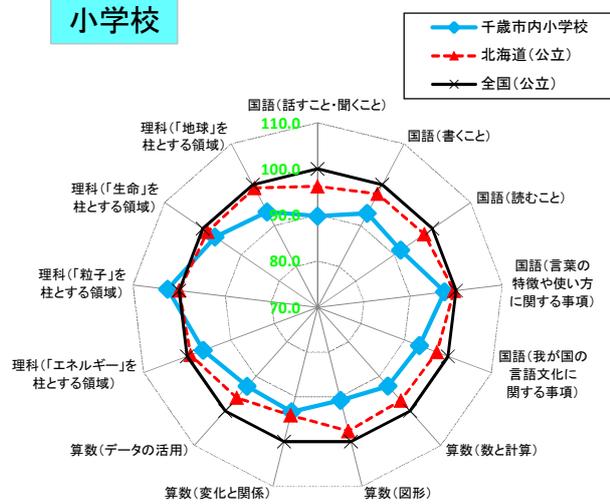
■千歳市内の状況及び学力向上策（小学校数:17校、児童数:780人）（中学校数:8校、生徒数:639人）

【教科全体の状況】

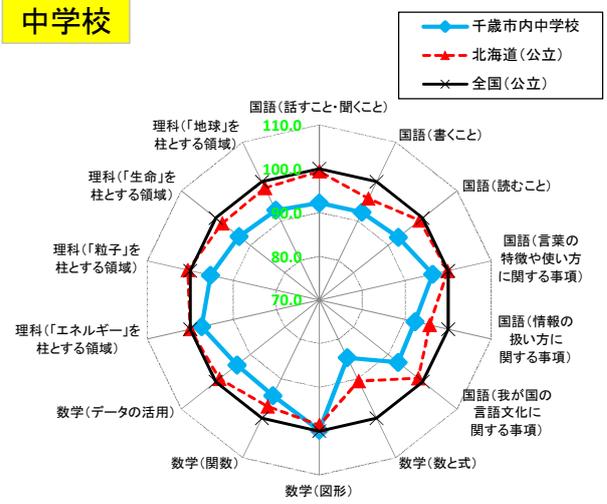
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	65
算数・数学	58	47
理科	62	47

小学校

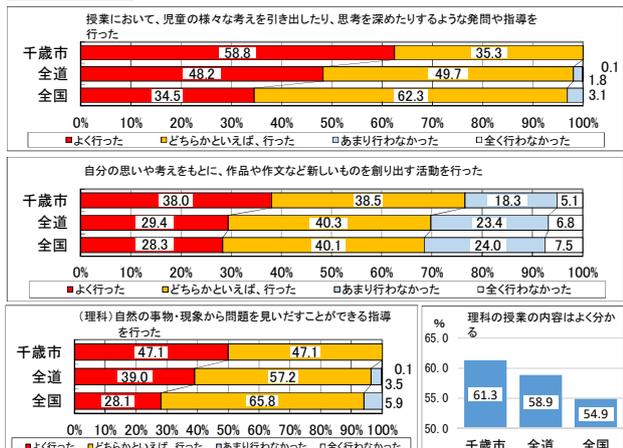


中学校

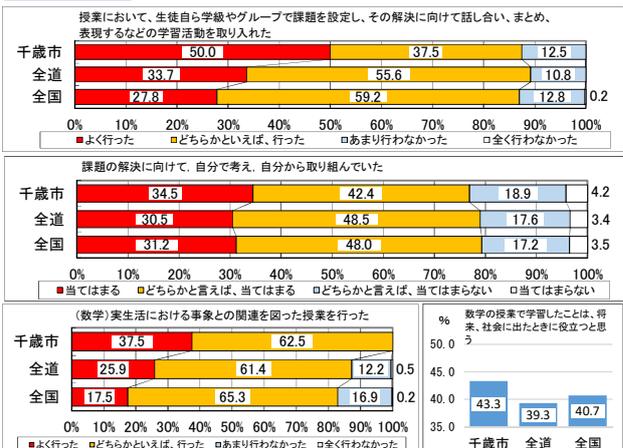


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったりするなど、授業改善を進めたことにより、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行うなど、授業改善を進めたことにより、理科の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科の「粒子」を柱とする領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現などの学習活動を取り入れるなど、授業改善を進めたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の「図形」の領域で全国平均正答率に最も近くなったと考えられる。

【千歳市の学力向上策】

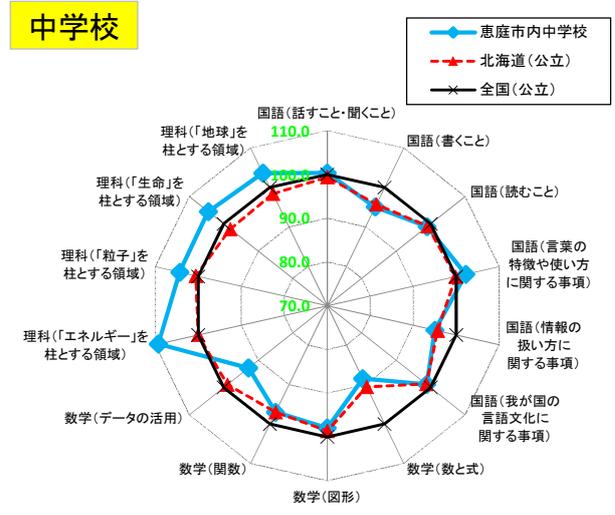
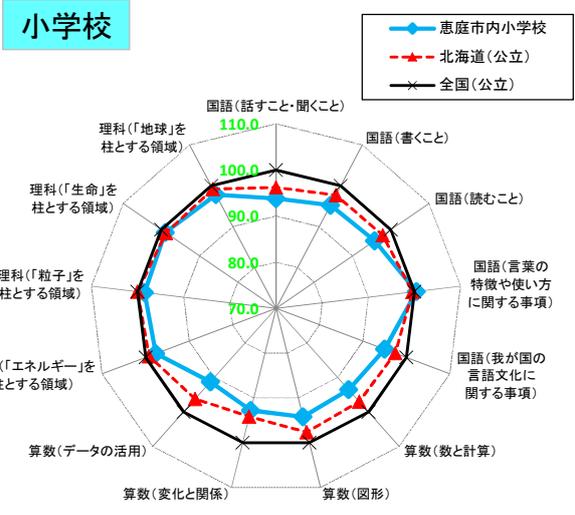
- ◎ 千歳市学力向上検討委員会による提言を踏まえた、授業改善の取組の徹底と検証・改善
- ◎ 「千歳市小中連携・一貫教育実施要領」に基づく、義務教育9年間を見通した円滑な小中接続と教育活動の充実
- ◎ ICTサポーターの配置や教職員研修の充実などによる、ICTを活用した授業改善の推進

■ 恵庭市内の状況及び学力向上策 (小学校数: 8校、児童数: 569人) (中学校数: 5校、生徒数: 554人)

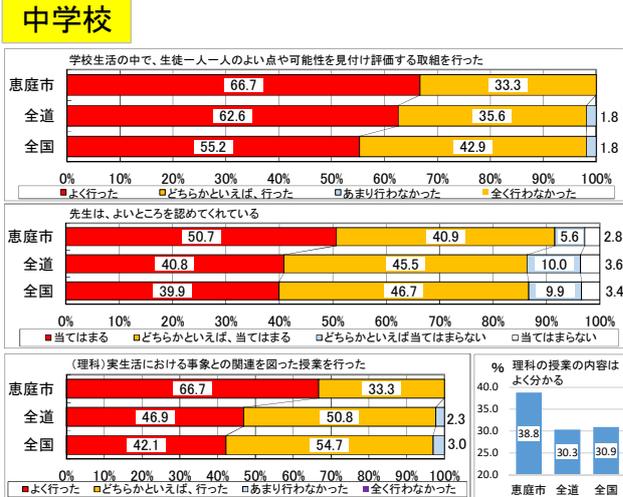
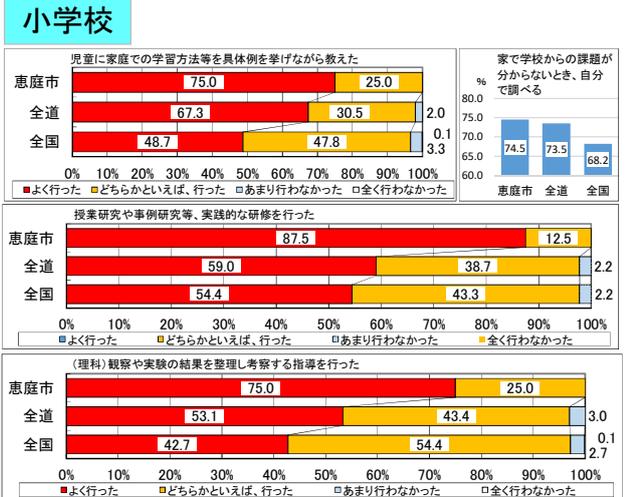
※教科全体の状況については、新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータを今回の調査結果に含めています。

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各学校において、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で学校からの課題で分からないことがあったとき、自分で調べると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行うなど、授業改善の取組を推進したことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の「生命」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

中学校

各学校において、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する取組を行ったことにより、先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、理科の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

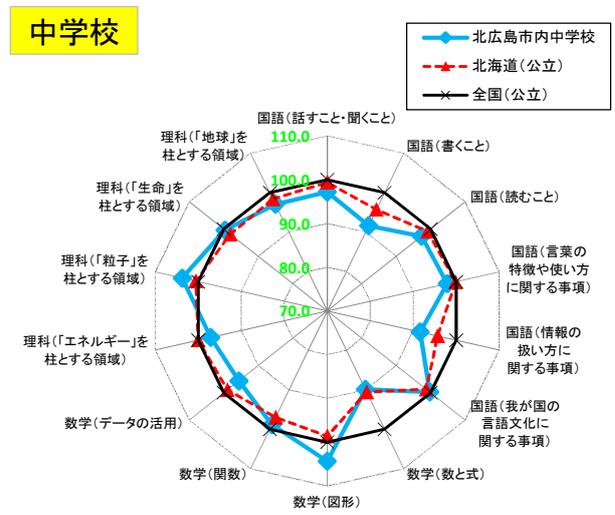
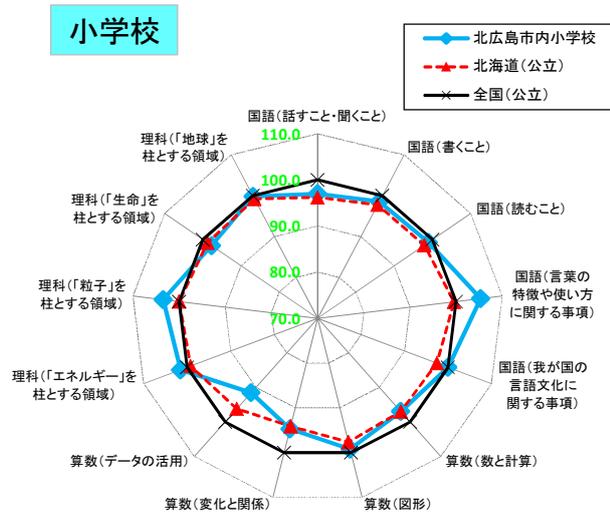
【恵庭市の学力向上策】

- ◎ 電子黒板などと組み合わせた1人1台端末の効果的な活用の検証・改善
- ◎ サマーセミナー、ウィンターセミナーなどの研修による教職員の指導力の向上
- ◎ 中学校区を基本とした児童生徒同士の交流や教員同士の交流などの促進を図るなど、小・中学校9年間を見通した教育の推進

■北広島市内の状況及び学力向上策（小学校数:9校、児童数:434人）（中学校数:6校、生徒数:477人）

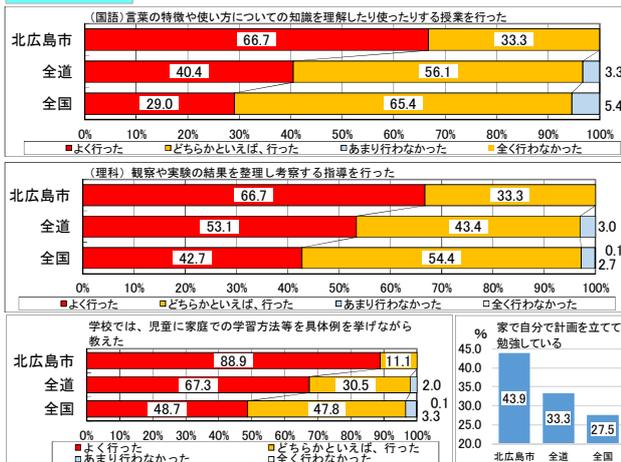
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

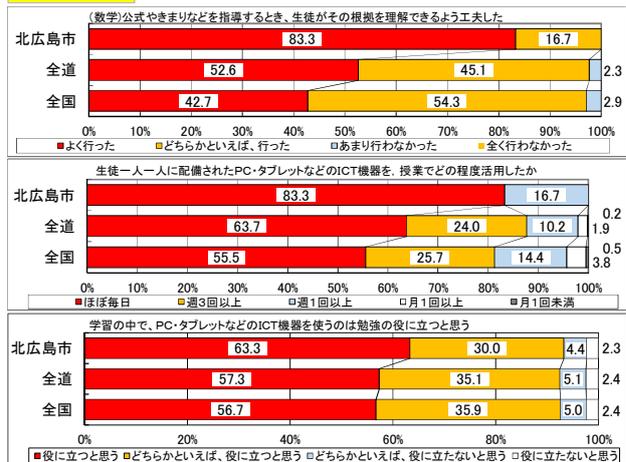


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の「エネルギー」「粒子」を柱とする領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校において、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えたことにより、家で自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、学習内容の定着が図られ、数学の「図形」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

各学校において、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【北広島市の学力向上策】

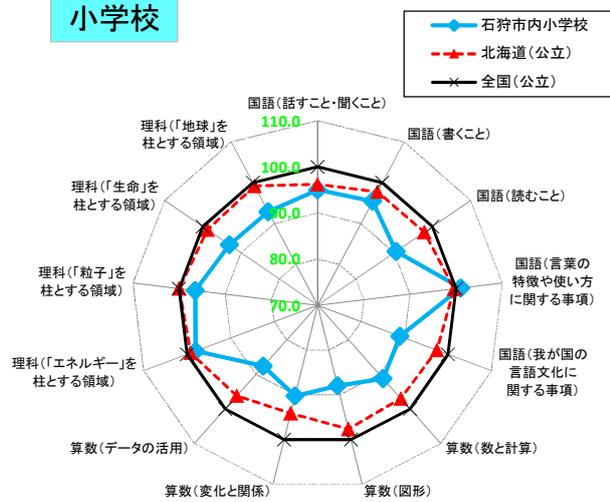
- ◎ 個別最適な学びと協働的な学びの充実を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善や個に応じた指導の充実
- ◎ 各中学校区で策定したスタンダードに基づく、小・中学校の一貫した学習・生活習慣を確立する取組の充実
- ◎ 市教育委員会指導主事による各種調査の分析を基にした各学校に応じた指導・助言の充実

■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:459人）（中学校数:7校、生徒数:449人）

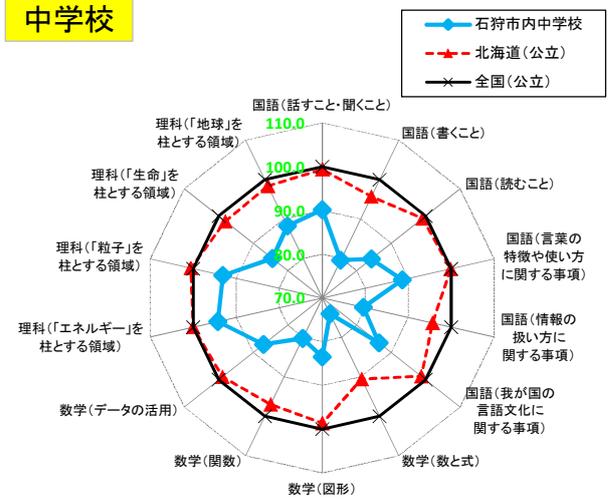
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

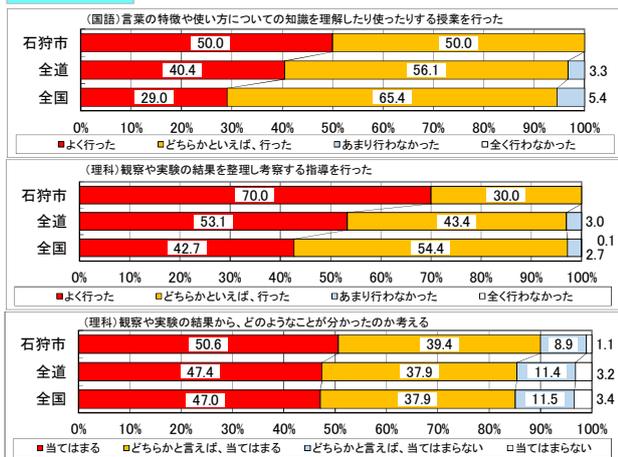


中学校

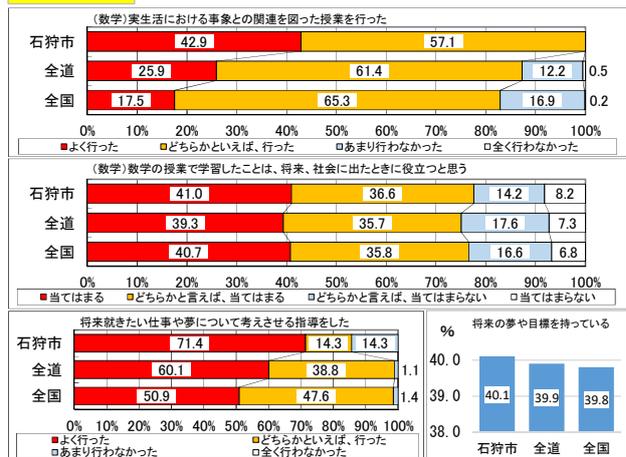


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科の「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

中学校

数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

各学校において、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を積極的に行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

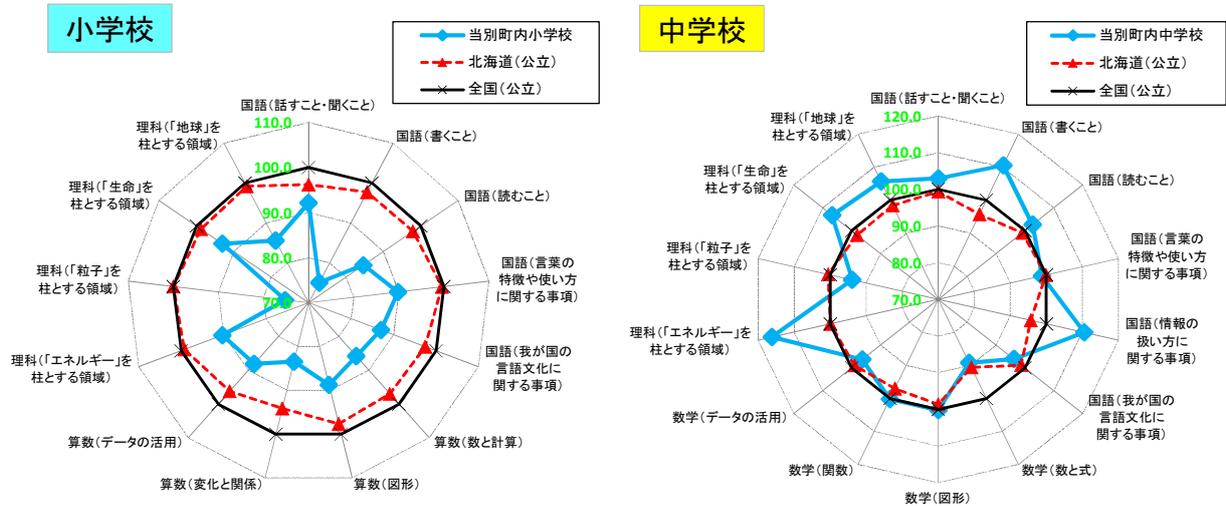
- ◎ ICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進
- ◎ 教科担任制の導入やエキスパートサポーター、外部指導者の効果的な配置による指導体制の充実
- ◎ 「学びの連続性による学力向上」をテーマにした、中学校区における小中連携の取組の推進

■当別町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:59人）（中学校数:2校、生徒数:76人）

※新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータは、今回の調査結果に含めています。

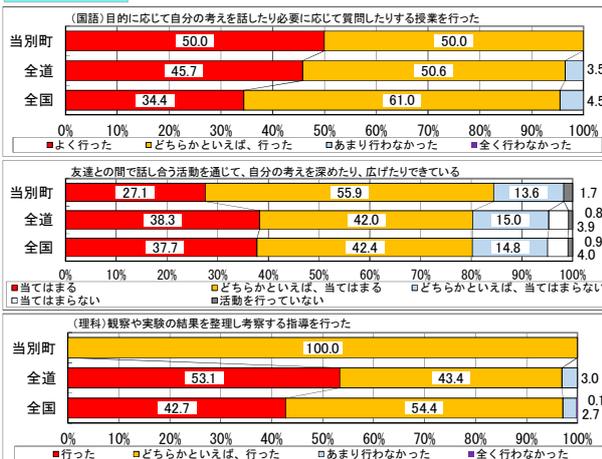
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

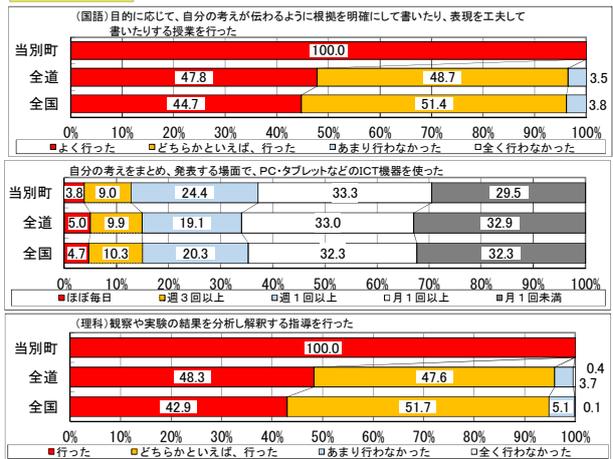


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが、どちらかといえばできたという児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行ったことにより、理科の「生命」を柱とする領域で、全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行うとともに、自分の考えをまとめ、発表する場面でICT機器を活用したことにより、国語の「書くこと」「読むこと」の領域と「情報の扱い方に関する事項」で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったことにより、理科の「エネルギー」「生命」「地球」を柱とする領域で、全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

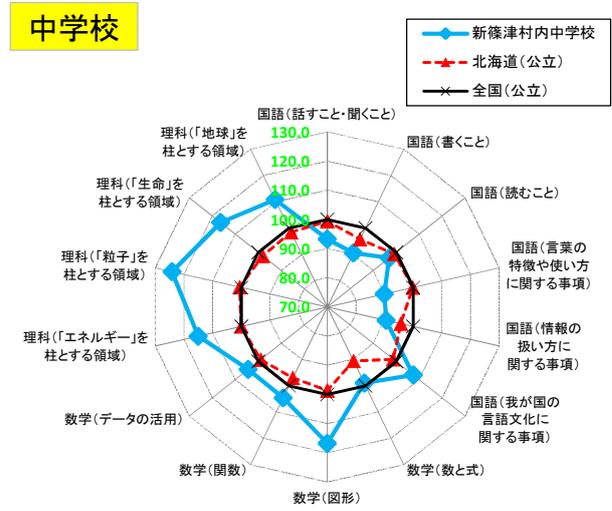
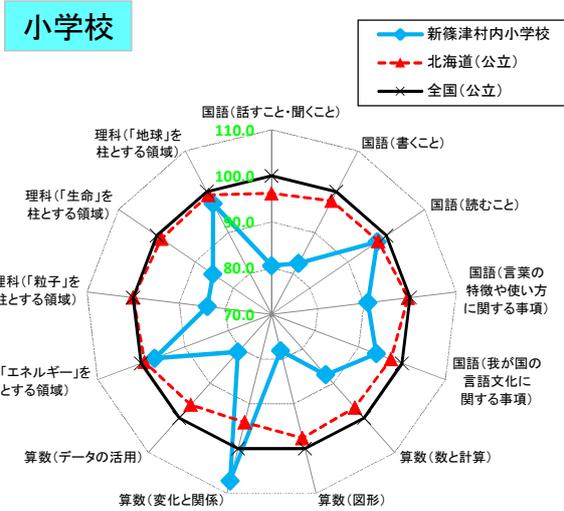
【当別町の学力向上策】

- ◎ 授業改善への支援(加配教員・町費負担教員の配置、ICT機器の活用推進、地域の教育力の活用)
- ◎ 教職員の資質向上への支援(指導主事による指導助言、教職員研修の充実)
- ◎ 授業外の学習支援(放課後及び土曜学習会の充実、長期休業中の学習支援、読書環境の整備・充実)
- ◎ データ分析に基づく学校改善プランの作成と実行(「課題探求型授業」の積極的な推進、教職員協働による学習指導・生徒指導の充実、「学びのハンドブック」の活用推進、小中一貫教育のメリットを生かした9年間の学びの連続性)

■新篠津村内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

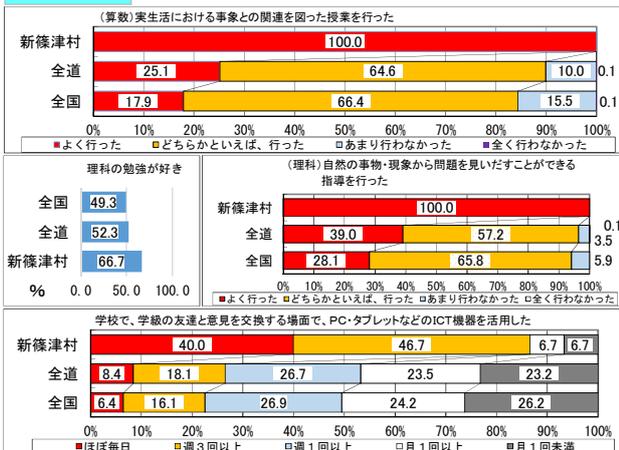
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

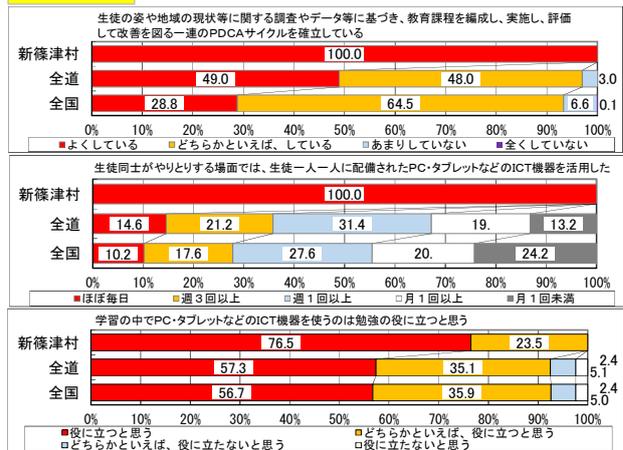


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の「変化と関係」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

理科の授業において、自然の事象・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の勉強が好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科の「地球」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。

村全体で、授業改善に向けたICT機器の効果的な活用の取組を推進したことにより、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を活用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

中学校において、生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、国語の「我が国の言語文化に関する事項」、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域、理科の全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、生徒同士がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用した取組を進めたことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新篠津村の学力向上策】

- ◎ 乗り入れ指導及び小・中合同研修等による小中一貫教育の充実
- ◎ 授業改善に向けたICT機器の効果的な活用
- ◎ 学習支援員による学習支援の充実